

令和6年度全建賞 推 薦 調 書  
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	そのたかせん てんちがわ さほうげきじんさいがいたいさくとくべつきんきゅうこうじ(たいせきこう)におけるとりくみについて
1. 事業(施策)の名称	その他河川 天地川 砂防激甚災害対策特別緊急工事(堆積工)における取組について
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和3年10月2日 ~ 令和5年5月31日
3. 事業費(工事費)	424 百万円
4. キーワード	地域一体となった復興、地域防災力の強化、災害伝承
5. 事業概要	<p>平成 30 年7月豪雨により、土石流による土砂災害が発生し、15 名の方が犠牲となる甚大な被害となった広島県安芸郡坂町小屋浦では、早期の復旧・復興を目指し、災害関連緊急砂防事業及び砂防激甚災害対策特別緊急事業を着実に進めるとともに、地域住民の防災意識向上にも取り組んできた。</p> <p>天地川については、5つの砂防施設(砂防堰堤:4基、堆積工:1箇所)を計画し、令和5年5月に堆積工が完成、令和6年2月に砂防堰堤4基目が完成したことで、平成 30 年7月豪雨災害と同等の土砂災害に対して、必要な安全度を確保している。</p>

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」		(a)住民の参画 (d)イベントの開催
アピールする 2)「秀でた成果」		(f)地域の活性化 (l)地域防災力の強化 (i)災害の伝承

7. 特にアピールしたい点	<p>当該工事は、砂防堰堤に加え、県内でも施工実績の少ない堆積工を組み合わせた、住民に馴染みのない土石流対策施設であったことから、機能や役割等について、説明会や回覧による個別の説明を重ねることで、住民の理解を深めることとした。</p> <p>これらの取組により、地域住民の事業に対する理解も徐々に深まり、防災工事に興味を持っていただき、工事の進捗に伴い、施工現場を見に来る人も増えていく中で、地域住民の方々から、『大規模な災害があったことを後世へ伝え、防災意識を高める契機とするため、記念に何か残せないだろうか』との要望があり、施工業者協力のもと、地域住民とも相談し、災害を忘れないため、護岸や底板コンクリート面に地域住民の方々から『小屋浦の好き・願い・笑顔』をテーマとして絵を描いてもらうこととした。</p> <p>地域の方々から事業に関心や親しみを持たれ、アーカイブとなることは、行政としても嬉しいことであり、その思いを受け止め、施工業者と連携のもと、実現へ向けた課題等を整理し、実行計画を策定した。また、将来の担い手である子供達にも参画してもらうことが望ましいと考え、教育委員会や小学校等へ働きかけを行い、子供から大人まで様々な世代の住民が参加する、土木構造物をキャンバスとした、夢のある取組を実現できた。</p> <p>更に、お披露目イベント(令和5年5月 14 日開催)では、こどもの日が近かったことから、堆積工の上空を青空の中、鯉のぼりが泳ぐ姿がメディア等に取り上げられ、終始笑い声や歓声が絶えない、地域住民と一体感のあるイベントとなった。堆積工は、投票形式で愛称(小屋浦いこいの美術館)が付けられ、地域で愛される土木構造物となっている。</p> <p>これらの取組により、砂防事業への理解、災害の教訓や意識・関心が高まり、地域防災力の向上や災害伝承に大きく貢献できたと考えます。</p>
---------------	--

## 8. 事業を代表する写真及びキャプション

【復旧状況】



【完成お披露目会】



## 9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

### (1)被災概要

安芸郡坂町小屋浦地区は、多数の溪流が存在し、降雨時には、その多くが天地川及び天地川の支川へ集約される。

平成30年7月豪雨では、大規模な土石流が発生し、天地川等が埋塞・氾濫した。地区の家屋は大半が倒壊もしくは土砂で埋没し、15名の尊い命が犠牲となる甚大な土砂災害となった。

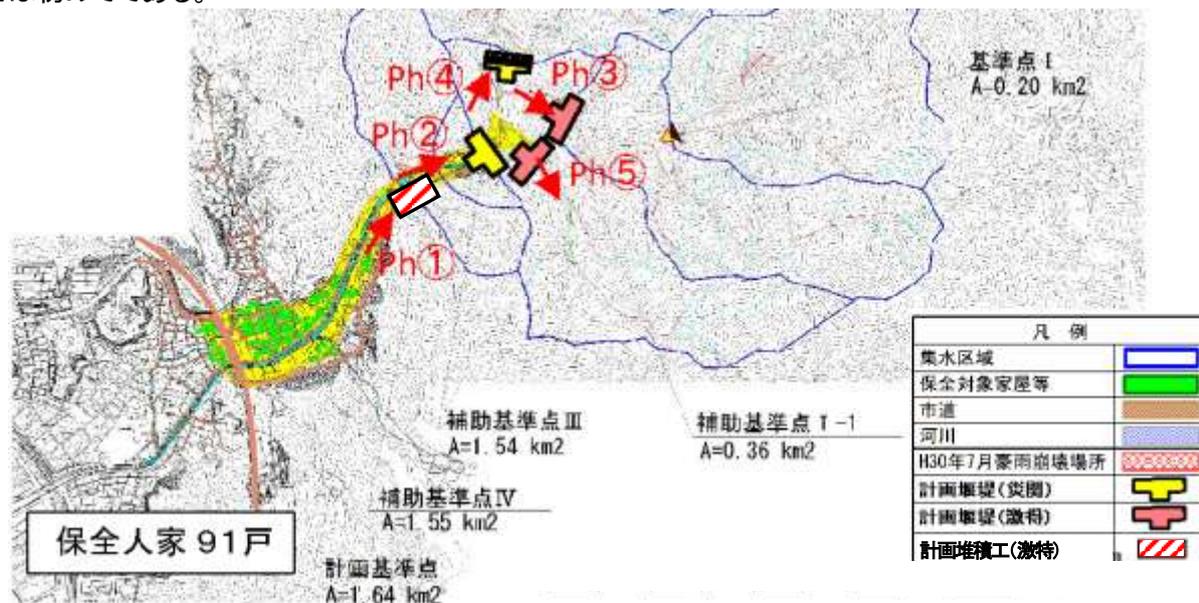


被災状況(既存の石積堰堤が崩壊した)

### (2)事業概要

流域内には溪流侵食や崩壊地が多数あり、著しく荒廃しているため、土石流対策として、流域内に4基の砂防堰堤を整備するとともに、県内でも施工実績の少ない堆積工を組み合わせることで、効果の早期発現を図ることとした。

堆積工は、土石流を減勢することで、土砂を堆積し捕捉するものであるが、今回のように大規模な整備は県事業では初めてである。



## 9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

### (3) 地域防災力強化のための取組(防災意識強化、災害の伝承)

#### ○地域の参画内容

- ・ 護岸へ絵を描く。
- ・ テーマは、『小屋浦の好き・願い・笑顔』。
- ・ 護岸へ設置するブロック(1.0×0.5m)のうち 48 個に地域住民の方々に思い思いの絵を描いてもらうこととした。
- ・ 24 個は、地域の小屋浦小学校校庭へ置いて、約 4 か月の間で児童に自由に描画してもらうこととした。
- ・ 小学生に加え、地域の保育園児も参加してもらう。
- ・ 子どもたちがブロック等でケガをすることがないように、小学校や保育園の先生との十分な打ち合わせにより安全性を確保した。
- ・ 残りの 24 個は現場事務所前に約4ヵ月間設置し、地域の方々に自由に描画してもらうこととした。
- ・ 別途、12 個のブロックをひとまとまりとして、地域の絵画教室の先生と生徒による大型の絵を製作してもらうこととした。
- ・ 絵を描きやすくするため、ブロックの表面を粗面から平滑面へ加工した。
- ・ 塗料は紫外線に強く、10～20 年は色褪せないもので、動植物等、自然環境へ配慮した製品を採用することとした。

#### ○イベントの開催

- ・ 護岸へ設置された絵のお披露目会を地域住民に対して開催し、工事完了後は立ち入ることのできない施設ということもあり、100 名近い方が参加した。
- ・ 5月であることから、他県から来ている災害ボランティアの提案で、堆積工を跨ぐように鯉のぼりをかけることとした(鯉のぼりは、地域から提供を受けたものや、地域住民が製作したもの等)。
- ・ 当日は、ブロックへ絵を描けなかった人のために、底張コンクリートの土砂がたまりにくい水平部に自由に絵を描く時間を設けることとした。
- ・ 堆積工は広く、子ども達に好評で、当日は家族連れ等が水遊びに興じる光景も多々見られた。

#### ○愛称決定

- ・ 堆積工という名称は堅く感じられるとの声があり、地域住民から愛称命名の提案があった。
- ・ 回覧板で募集した約 40 の愛称のうち、地域の班長、代表者による投票で『小屋浦いこいの美術館』が選ばれ、お披露目会で発表された。

#### ○地域の復興

- ・ 当該地区は甚大な被害が発生したが、砂防施設の整備により、家を再建し、将来にわたって住み続けたいと願う人も増加した。
- ・ イベントは、子どもからお年寄りまで、多くの近隣住民や災害ボランティア、メディアが参加し、未来を感じさせる、思い出深い復興の1ページとなった。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

